

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月3日(日)、4日(月)▼家族は信州のスキー場へ。寒中見舞いの宛名書き。「新年俳句大会」選句その他、雑用。四日は一歩も家を出ず。酒も抜く。

5日(火)▼仕事始め。洋酔、硯児、酔馬、小花、徳永、展枝……全体閑散。

6日(水)▼寒中見舞ざつと二五〇枚くらいか、投函。やや風邪気味。要注意。東吉野「天好園」のお孫さん、まりあさん来店。国会議員のT先生、新年の挨拶に。「銀漢」！十二、一月号を読んでいる」と買って下さる。「宙句会」あと十四人。若者多く、伸びてきている。

7日(木)▼「十六夜句会」あと十一人。環順子さん、池田のりをさん。閉店の頃、うさぎさん来たので敦子さんと餃子屋にちよつと寄る。

8日(金)▼店、「大倉句会」あと十九人。長崎から、永山憂仔さん上京。差し入れの樽酒を開ける。昔の仕事仲間の神村君、旧長銀のKさん、旧興銀のKさんと。

9日(土)▼十時、運営委員会。「本部句会」会場は、全国家電会館にて、散歩がてら向かう。新年大会用の色紙、短冊などを買い、神田明神を目指すが行き着けず、東大龍岡門に迷い込む。湯島天神を参拝して会場へ。五十九名。あと、「はなの舞湯島店」にて親睦会、二十名ほど。やや風邪気味。

10日(日)▼「春耕同人句会」で中野サンプラザ。終わる頃、「山暦」主宰・青柳志解樹先生がわざわざ挨拶に来て下さる(同じ会場で句会)。あと、「灸谷」で親睦会。

11日(月)▼風邪気味にて休養。夕方、杏一家来て、佐賀・武雄温泉の湯豆腐。からすみ、かなり干し上がり、最終、整形段階。

12日(火)▼「春耕」同人、窪田明さん句集『桜川』の句評六枚。今

朝、東京、初雪があったと。寒い。店、「火の会」八人。ORIX堀尾君三人。「俳人協会賀詞交換会」あとの本井英、山田真砂年、池内けい吾、袖口満さんなどが寄って下さる。発行所は、二月号の最終校正と編集会議。水内慶太さんより、寒風干しの鮭一本到来。巨大。

13日(水)▼「梶の葉句会」選句。あと、店にて多田美記さん、「銀漢賞」受賞の祝い、十二人。あと「ささらぎ句会」七人。事業部「五周年記念祝賀会」の打ち合わせ。三輪初子さん誕生日にて有志で祝う。あと、井蛙、いづみ、展枝さんと「大金星」にて「五周年記念祝賀会・新年会」の余興の打ち合わせ。凄い事になりそう。

14日(木)▼店、閑散。カウンターに馴染みが点々……。元ORIXで今ケンコーコーポレーションの佐藤さん久々。

15日(金)▼「葛句会」選句。あと店に五人。桶の川酒造の菊本さん、藤枝さん来店。桶野川は、私が薦めている酒の一つ。昨日に続き閑散。二十一時、閉めて「ふくの鳥」へ。いづみ、展枝、羽久衣さん、追って対馬康子さん合流。いづみさん「俳壇賞」三十句で上位に入っており、祝う。

16日(土)▼「纏句会」西村和子さんゲストの予定だったが、ヘルペス罹患とて休み。十三人。題の鮮の刺身見事！鯛の子と若筍煮、子持ちやうりか煮など。酒は「開運」。あと渋谷で小酌。帰宅して宮澤と酒盛り。伊集院静氏より妻の命日にと鳩居堂のお香届く。

17日(日)▼「春耕新春俳句大会」選句十句、洋酔さんに送る。応募九七〇句。「銀漢新年俳句大会」用の短冊、色紙など沢山書く。十三時半、池袋駅発レッドアロー号で秩父。午前中から行っている「武蔵野探勝句会」中心メンバーに秩父神社で合流。十三番札所に寄り、割烹「かつら」。昔、盤水先生と寄った店。禪次さん手配で猪鍋。何ともうまい。五句出し句会。あと「猪鍋」で二句。十七人。十九時二十五分のレッドアロー号で帰る。

18日(月)▼雪。「新年俳句大会」の挨拶考える。店、「演劇人句会」十一人。佐藤文香、北大路翼さんなど。

19日(火)▼十三時、「俳句界」松木佳子さん、写真家・山根衣里さんと銀漢亭に待ち合わせ。三月号の「セレクション結社」の写真撮影。店の中、近くのビルの前など。店、閑散。最後に石寒太先生、森さん他、毎日新聞の方々。伊那の「井月俳句大会」の折、山頭火を交えたシンポジウムの企画を北村監督と打ち合わせたのでその報告と。

20日(水)▼高校同期の「三水会」十人。あと何とか客途切れず。「新年会」用の衣装到着。笑ってしまふ。

21日(木)▼妻・光代の九十年目の命日。店、杉並の家の改修工事してくれた名古屋さん。一平さん、会社に出るのは今週末でと。「銀漢句会」あと二十人。

23日(土)▼「銀漢五周年記念祝賀会」東京ドームホテル地下宴会場「シンシア」。内輪だけの会ながら、一二〇人集まる。第二部の宴会では、真つ赤なスペインコールのジャケットで入場する。あと銀漢亭に三十数名集まり、二次会。

24日(日)▼光代の満十年の忌の偲ぶ会。兄夫婦、義妹夫妻に来てもらう。佐賀の温泉豆腐を中心とした料理。手製のからすみ、鮎刺身、鯛の酒粕煮、その他でもてなす。郷里・駒ヶ根の応援隊(観光大使)として市報へのメッセージなど書く。

25日(月)▼九州の永淵恵子さん、NHK俳句大会で大串章特選を取り、上京とて、店に寄って下さる。へ一歳をあやす百歳小鳥来る」

「一」が題と。「俳句」鼎談あとの高野ムツオ、青山茂根、村上軯彦さん。村上君、「俳人協会新人賞」受賞。おめでとー！

26日(火)▼「萩句会」選句へ。店、超閑散にて、二十時前には閉めて二十一時に帰宅。家族と食事。こんな日があってもいいか……。京都のWさんから来た九条葱と油揚げの炊き合わせ。うまい！伊那谷の従兄弟から餅、するめの粕漬、野沢菜など到来。嬉しく、

27日(水)▼「雛句会」十一人。「角川新年会」あとの山田真砂年、今井肖子、本井英、水内慶太、祐森水香、しなだしん、黒川悦子、小川洋、竹内宗一郎、天野小石……さん他。

28日(木)▼日経新聞の丸田さん仲間と。丸田さんは伊那北高校の後輩。「井月忌の集い」のちらしを北村監督が届けて下さる。

30日(土)、31日(日)▼終日家。「銀漢」三月号の同人評、会員評、彗星集評、添削教室。その他仕上げる。「俳句四季」四月号の花の歳時記に桃の花について四枚なども。集中した二日間。30日は夜、家族で食事。タン塩、からすみ、鯖ずしなど。31日は朝から桃子と孫二人苗場へ。夜、宮澤と孫二人と取り寄せたぶぐ料理と鯖酒など。

2月1日(月)▼早朝から宮澤と孫二人苗場へ。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十一人。今日は岸田稚魚と。全体閑散。

2日(火)▼開店以来の閑散。客二人で二十時にすぐ閉める。都営新宿線の中で肩を叩かれ振り返ると伊那北同期の〇〇君。彼のことはよく解っているのだが、名前が出てこない。二駅で別れたが、名前を思い出そうと新宿駅の「三崎丸寿司」で、酒を飲みながらあれこれと……。もう一軒。そうだ、田中則明君！同期で一、二を争う秀才であった。

3日(水)▼「ささらぎ句会」あと九人。「宙句会」あと十二人。その他まずまず賑わう。家族、苗場から戻る。

4日(木)▼「十六夜句会」あと七人。城島さんと学生。環順子さんグループなど賑わう。

5日(金)▼「大倉句会」あと十八人。羽久衣さん持ち込みの蕪鰯何ともうまい！片山一行さんから宇和島のじゃこ天も。

6日(土)▼三笠書房の押鐘会長と荒木町で河豚を食べる約束であったが、昼頃、連絡があり、体調不良とて中止に。エッセイ二本ほど書き、十六時から早々と酒盛り。自家製のからすみ、信州から来た漬物など。一旦、寝たあと宮澤が帰宅したのでもう一度酒盛り。こんな休日之久々とのこと。この生活が続いたら危ない。